

介護保険に携わる人の情報誌

月刊

介護保険

8

2007 No.138

株式会社 法研

平成8年6月20日
第三種郵便物認可
毎月1回1日発行
月刊介護保険
第12巻第138号
平成19年8月1日発行

特集

「コムスン問題」と 「くすのきの郷問題」の 本質を探る

— 法令遵守とサービス確保のバランス —



インタビュー

井部 俊子 さん (日本看護協会副会長)

— 介護現場での看護職の活躍に期待 —

フォトレポート

施設から 地域へ 自宅へ

— 社会福祉法人伯耆の国と社会福祉法人小田原福社会の取り組み —

在宅で最後まで支えるためのサービスを提供

社会福祉法人小田原福祉会

ショートステイとデイの拠点に住宅街に

社会福祉法人小田原福祉会（理事

長＝時田純氏）は、平成18年11月、高齢者総合福祉施設潤生園（神奈川県小田原市）から車で5分ほどの地域に在宅介護総合センター「れんげの里」をオープンした。自治体からの補助金は利用せず、完全な自主事業である。

閑静な住宅街にあるれんげの里は、2階建て、建物面積はのべ2440㎡。外壁は漆喰塗装、また床や天井にコルク、建具には木製の引き戸などの自然素材を使用した建物。大きな窓からはさんさんと日が差し込み、周りの町の様子や田園風景、背後には富士山も望むことができる。1階は定員30人のデイサービスセンター、2階は40床のショートステイ施設で、4床室の和室が5室、洋室が4室、個室が4室ある。

デイサービスセンターは、80～90歳代の人、要介護度は1～2など、軽度の人が多く利用している。

午前中、デイサービスでは、モーニングコーヒーを飲んだあと、書道など趣味のレクリエーションが設け

られている。午後には、ボランティアが合唱やダンスを披露しに来ることもあるそうだ。

デイサービスの一角には静養室が設けられており、医療依存度の高い人も利用できる。また、静養室の窓からはデイサービスのリビングを眺めることができるようになっており、静かに休みながらも、デイサービスに参加しているような気分を味わえる工夫が施されている。れんげの里の秋山基子氏（潤生園カスターマシーセンター長）は、「れんげの里で安らぎを感じていただけるようにスタッフ一同心がけています」と述べる。

地域の問題を地域でみる

小田原福祉会は、昭和53年に特別養護老人ホームを開設して以来、寝たきり老人のデイサービスをはじめ、365日、昼夜2食の配食サービス、24時間の訪問介護など、介護が必要になっても在宅での生活が継続できるようにサービスを開発し、先進的に取り組んできた。

時田園長はそうした取り組みについて「施設入所は、本人が希望して

いるのではなく、家庭や家族の状況でやむをえず入所している。施設に入ることは、自分の住まいを移し、これまでの生活と切り離してしまうことだ。地域の問題を、できるだけ地域で対処していくことはできないか」という思いがあったからだ。

平成4年には、認知症の人のためのケアを提供する通所介護事業所「やすらぎの家」を創設して、通所体制で認知症の人を支える取り組みを始めており、現在は市内9カ所に展開している。

訪問介護は、平成5年に、サービス提供時間を午前7時から午後11時まで延長し、平成8年には24時間サービスに広げている。それとともに、人材育成にも力を入れ、ヘルパー養成研修などを行ってきた。訪問介護事業所は現在、市内3カ所になっている。

食事については、平成元年、配食サービスに取り組んだ。365日、潤生園が食事作りを担当し、スタッフが高齢者の自宅に届けた。平成5年には、小田原市が行政サービスとして配食サービスを開始し、潤生園が全体の6割の委託を受けて、現在4万5000食を配達している。平成10年からは、地元の有志らが結成

したボランティア団体「虹の会」が土日祝日、年末年始の配達を担当している。

そして平成18年度には、小田原市から地域包括支援センターの委託を受けて、「第3地区地域包括支援センター」を運営することとなった。

平成19年4月からは、地域密着型サービスの夜間対応型訪問介護を始めた。潤生園がオペレーションセンターを運営するが、訪問サービスは、潤生園の運営する介護保険事業所のほか、地域の他法人の事業所とが連携して担当することになっている。現在は、ほかの事業者が24時間に対応できる体制を構築できるかどうかというところから折衝をしているが、連携が実現すれば、地域における夜のセーフティネットの構築が可能になる。

時田理事長は「たんにサービスを提供するのではなく、在宅で最後まで支える仕組みをつくり続けてきました。根本的な目的は、安心できる社会をつくることです。われわれだけでなく、みんなが共通の認識をもち、小田原に住んでいけば今後も安心だと思ってもらえるような町になればと思う」と語る。

高齢者総合福祉施設

潤生園



筋力向上のための機械も備えている



ウッドデッキから眺める中庭。奥に見えるのは一般の住宅で、地域のなかにいる実感をもつ

広々としたリビングでは利用者同士の団らんが



2階のショートステイには、自宅での生活を意識した和室も

電化厨房とスチームコンベクションオープンなどの新調理システムを導入した厨房。衛生的で栄養効果の高い食事を提供できる



社会福祉法人小田原福祉会 時田純理事長「地域に役立つことをするのは社会福祉法人の務めです」

潤生園 カスタマーセンター 秋山基子センター長



ボランティアによる音楽の演奏が行われることもある